

令和2年度 第4回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和3年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名

食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間

令和3年1月22日（金）から2月5日（金）まで

4 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象

令和2年度希望郷いわてモニター 204名

6 回答者数

177名

7 回答率

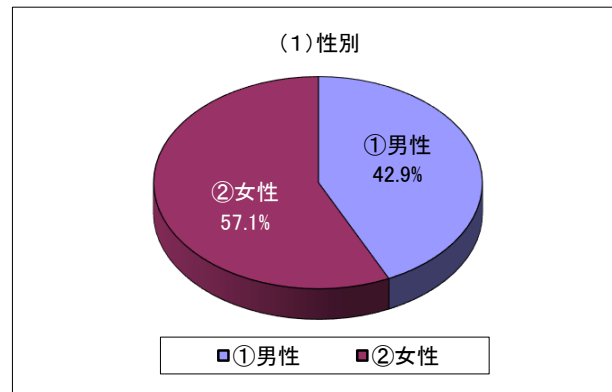
86.8%

II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

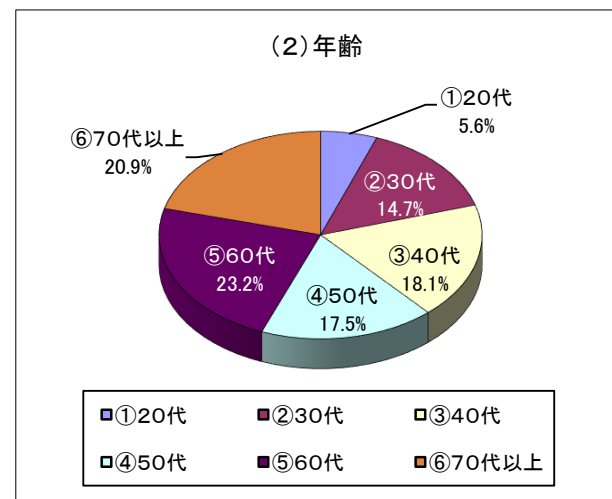
(1)性別

①男性	76
②女性	101
計	177



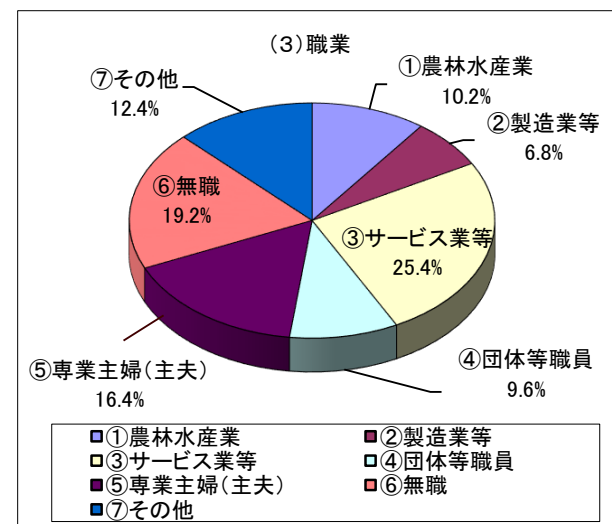
(2)年齢

	合計	男性	女性
①20代	10	1	9
②30代	26	11	15
③40代	32	14	18
④50代	31	10	21
⑤60代	41	21	20
⑥70代以上	37	19	18
計	177	76	101



(3)職業

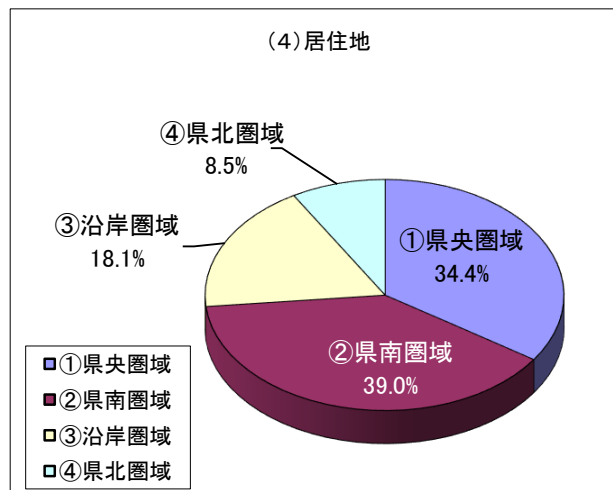
	合計	男性	女性
①農林水産業	18	9	9
②製造業等	12	6	6
③サービス業等	45	24	21
④団体等職員	17	6	11
⑤専業主婦(主夫)	29	1	28
⑥無職	34	22	12
⑦その他	22	8	14
計	177	76	101



※「その他」の内訳:パート、アルバイト、自営業、学生、不動産賃貸業、観光業、建設業、運送業、事務員、営繕員、医療従事者、管理栄養士、法人代表 等

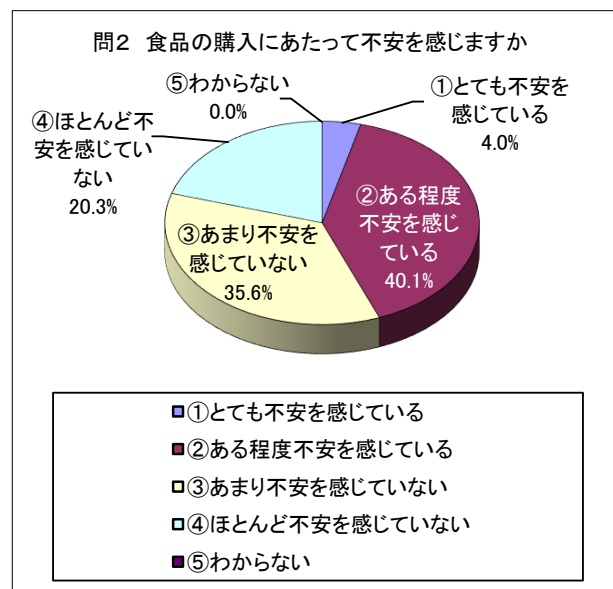
(4)居住地

①県央圏域	61
②県南圏域	69
③沿岸圏域	32
④県北圏域	15
計	177



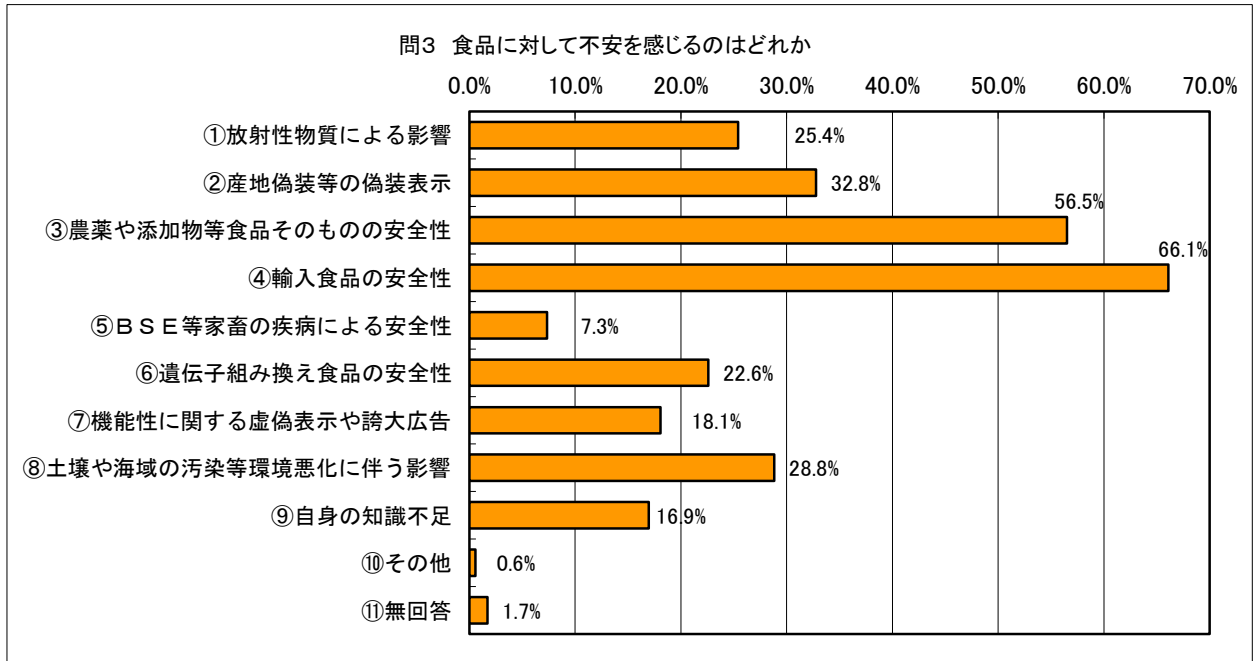
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	7
②ある程度不安を感じている	71
③あまり不安を感じていない	63
④ほとんど不安を感じていない	36
⑤わからない	0
計	177



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は44.1%であり、不安を感じない人の55.9%を下回っている。また、前回(令和2年3月調査。以下同じ)の49.3%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

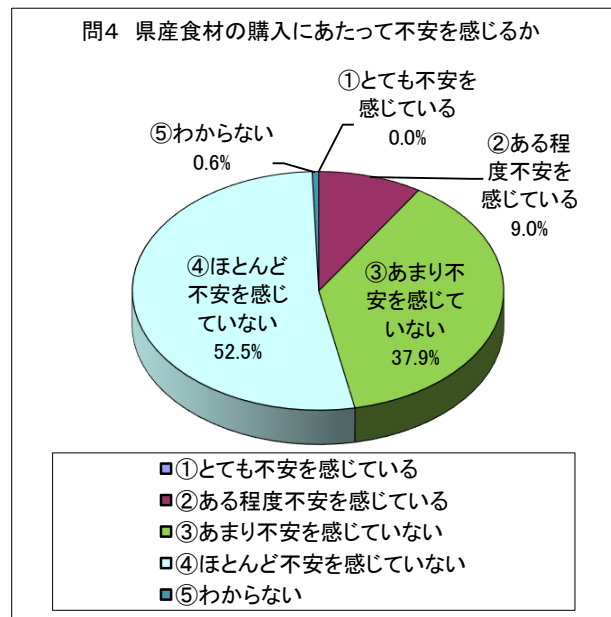


※「その他」の主なもの: 輸入食品の安さ

不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「④輸入食品の安全性(66.1%、前回72.6%)」が最も多く、次いで「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(56.5%、前回59.2%)」、「②産地偽装等の偽装表示(32.8%、前回31.8%)」の順に多かった。
 なお、「①放射性物質による影響」は25.4%と、前回(13.9%)よりも増加している。

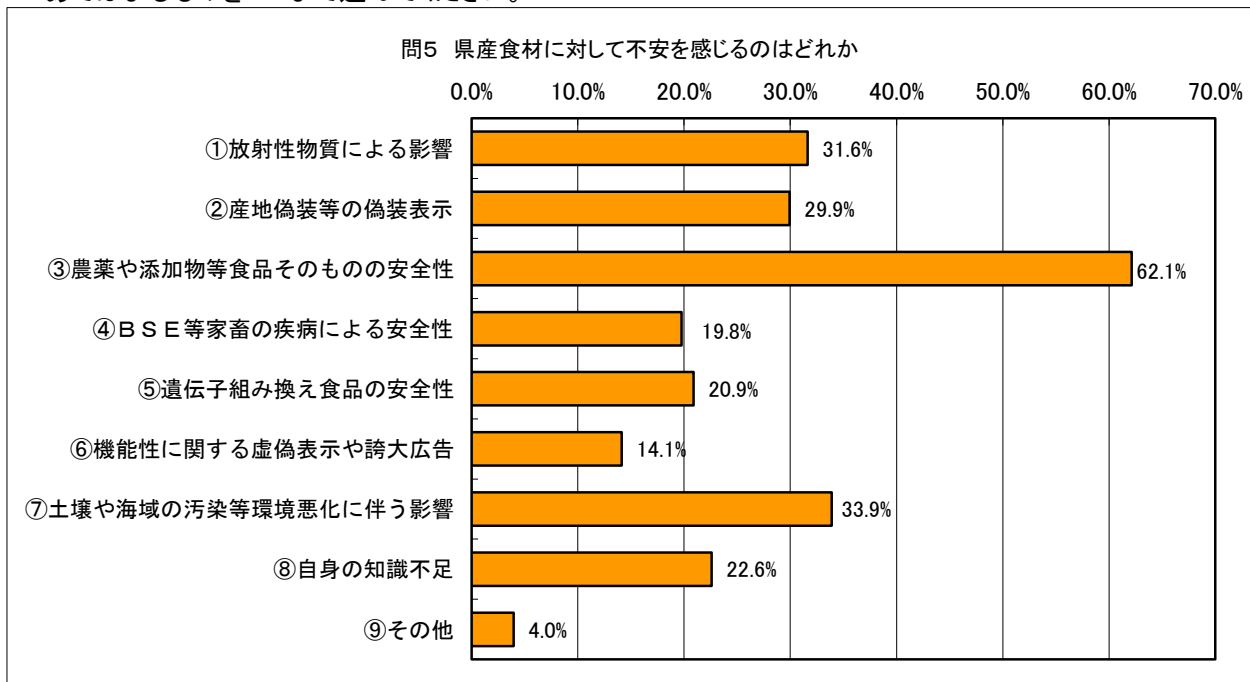
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	0
②ある程度不安を感じている	16
③あまり不安を感じていない	67
④ほとんど不安を感じていない	93
⑤わからない	1
計	177



県産食材の購入にあたって不安を感じている人は9.0%(前回14.4%)となっており、不安を感じない人の90.4%(前回85.1%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

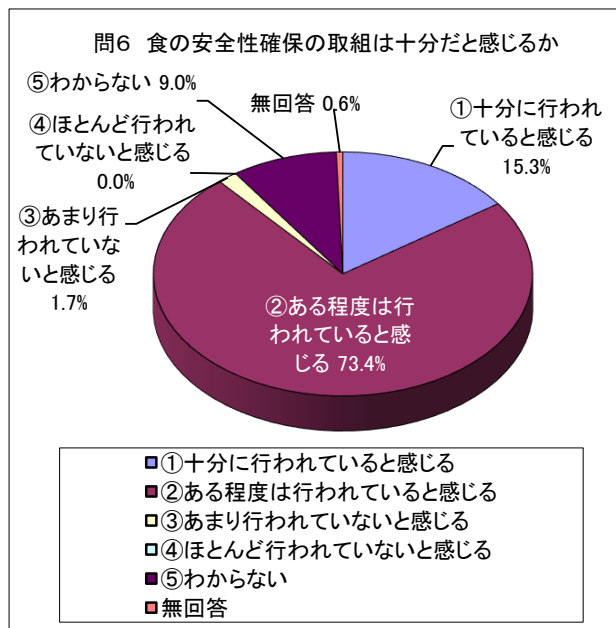


※「その他」の主なもの: 経営者のモラルにより県内外どこでも不安は残ると思う、県産品をいつまで食べられるか不安(生産者が不足しているのではない)等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(62.1%、前回65.7%)」が最も多く、次いで「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(33.9%、前回35.3%)」、「①放射性物質による影響(31.6%、前回24.4%)」の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

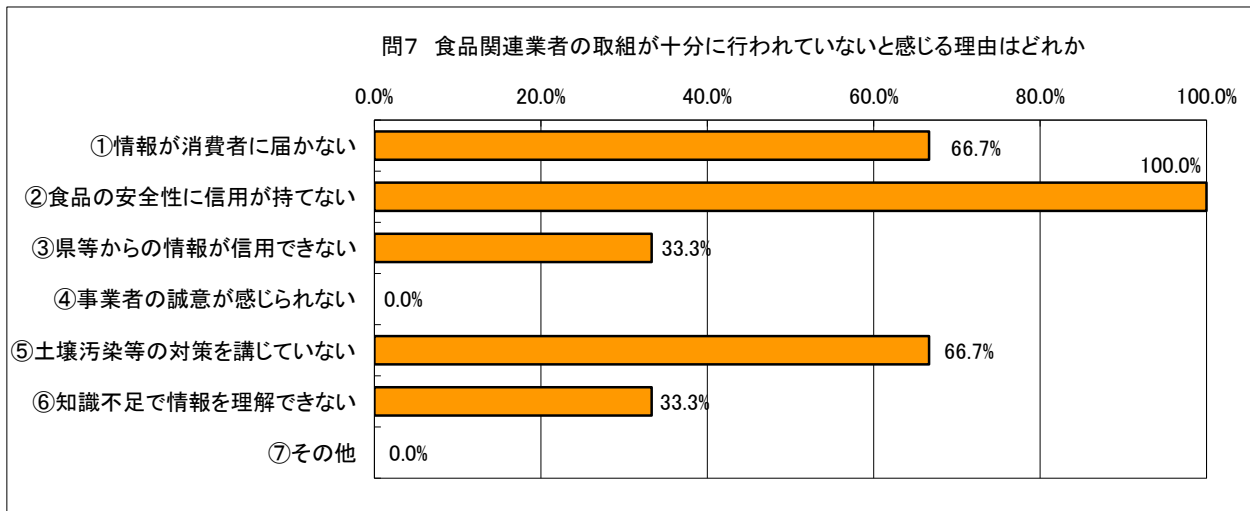
①十分に行われていると感じる	27
②ある程度は行われていると感じる	130
③あまり行われていないと感じる	3
④ほとんど行われていないと感じる	0
⑤わからない	16
無回答	1
計	177



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、88.7%(前回78.1%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

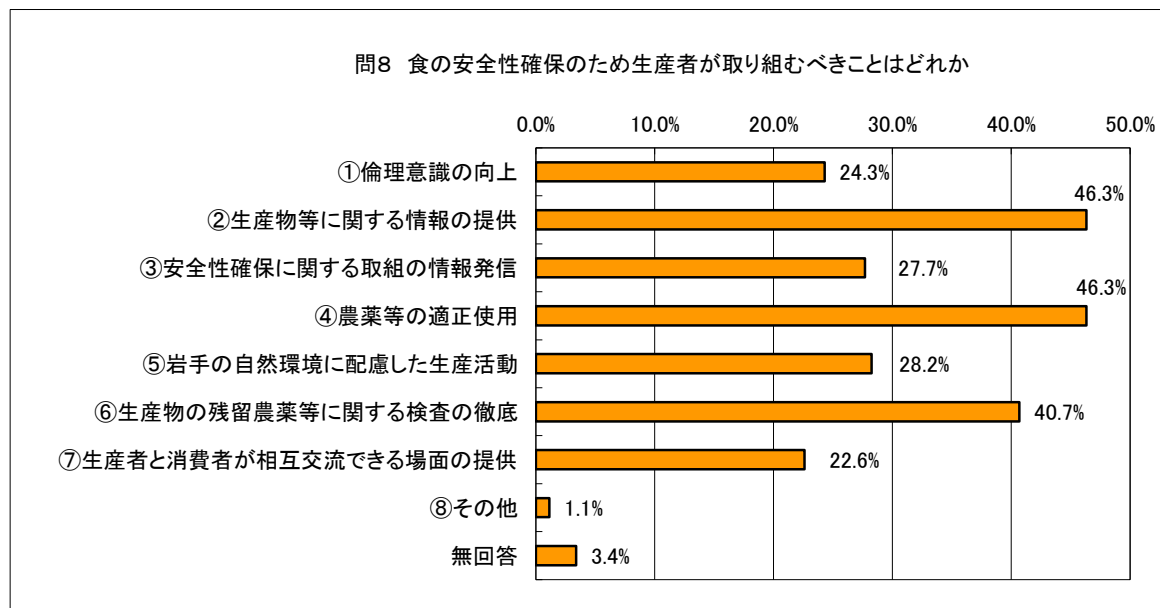
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、「②食品の安全性に信用が持てない(100%、前回55.6%)」が最も多く、次いで、「①情報が消費者に届かない(66.7%、前回44.4%)」及び「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(66.7%、前回44.4%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



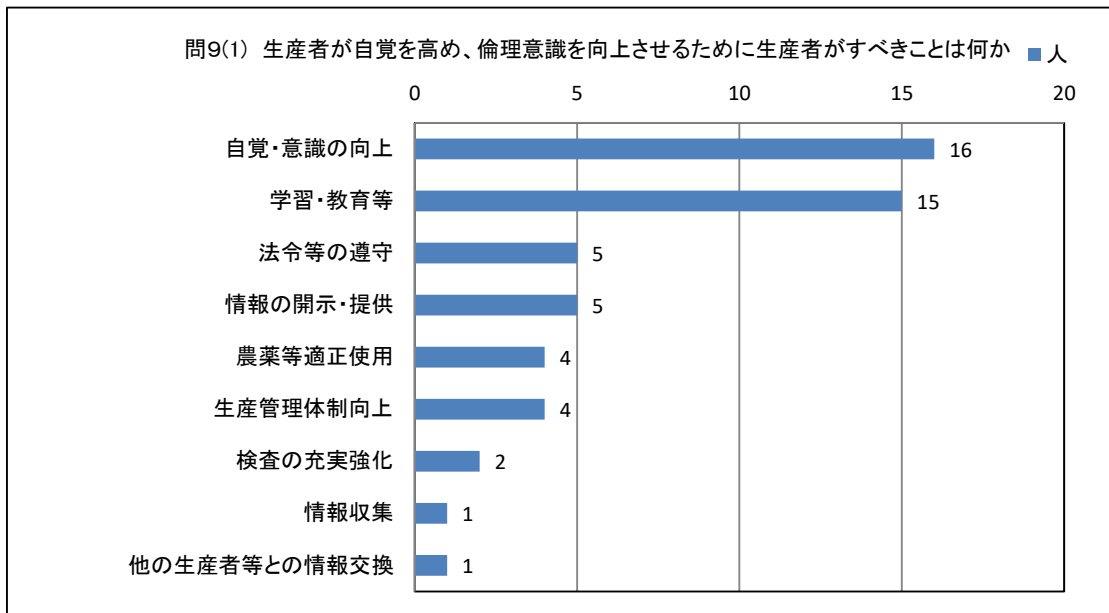
※「その他」の主なもの:しっかりとした作業をして頂ければそれで良いと思う

県民が求める生産者の取組は、「②生産物等に関する情報の提供(46.3%、前回47.3%)」及び「④農薬等の適正使用(46.3%、前回49.3%)」が最も多く、次いで、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(40.7%、前回40.3%)」の順に多かった。

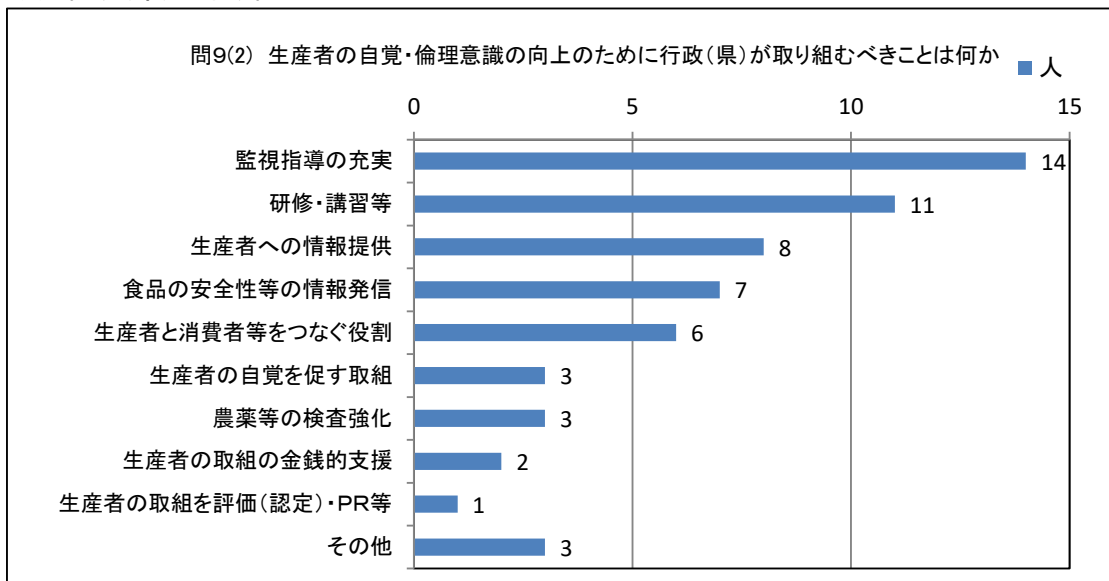
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いませんか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



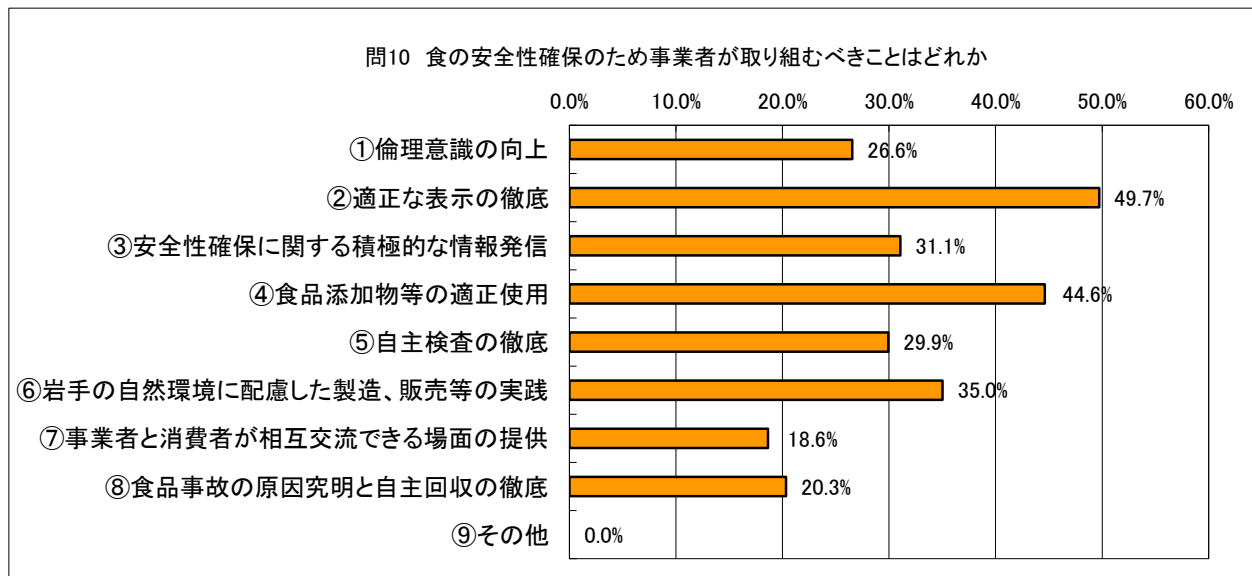
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:啓蒙や指導、生産者が簡単かつ継続的に確認記録できる仕組み作り 等

生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関することが最も多く(16人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(14人)が最も多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

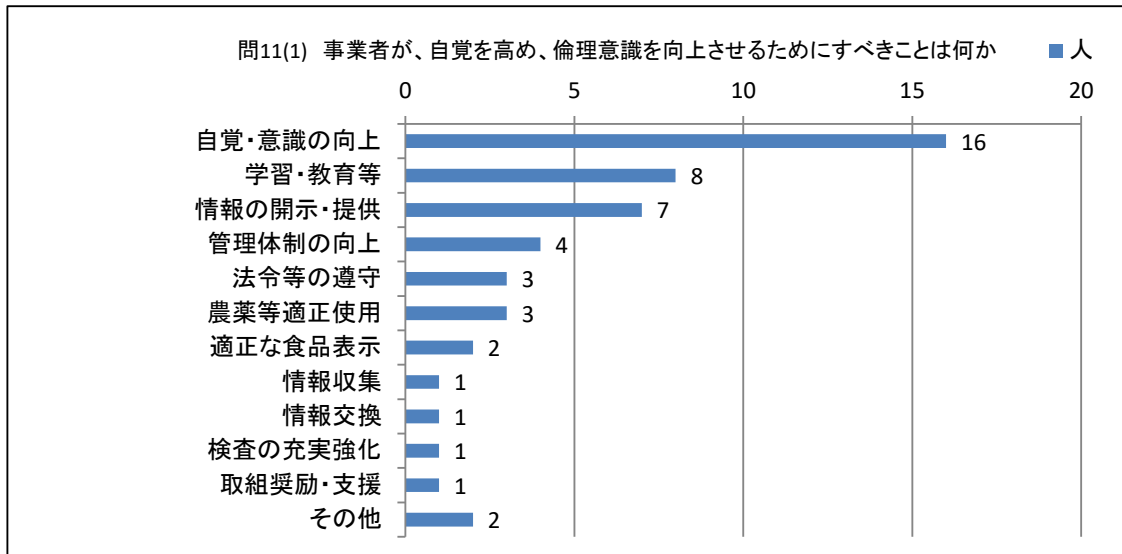


県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(49.7%、前回53.7%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(44.6%、前回47.3%)」、「⑥岩手の自然環境に配慮した製造、販売等の実践(35.0%、前回22.4%)」、「③安全性確保に関する積極的な情報発信(31.1%、前回42.3%)」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

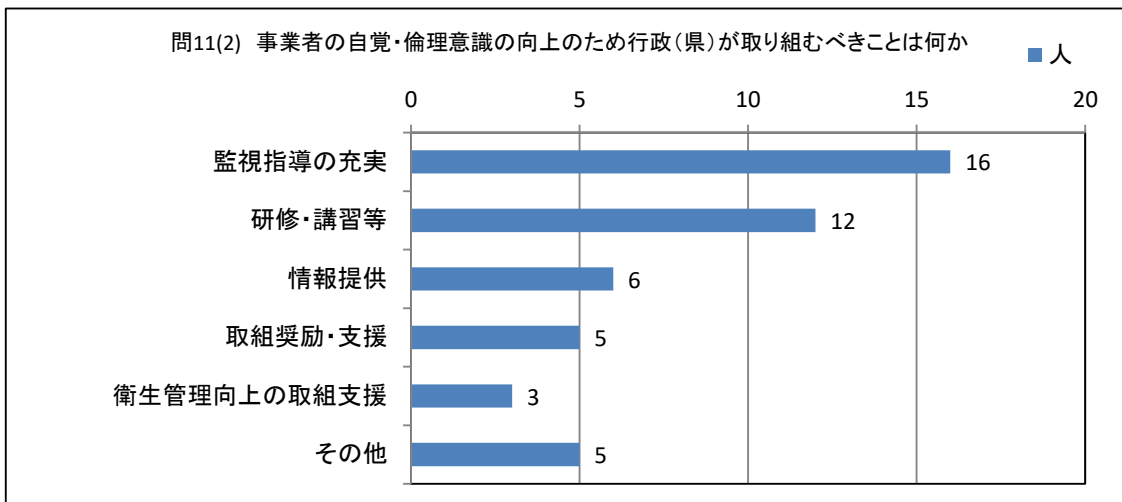
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いませんか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの: 普段通りの仕事をしていただければそれでいいと思う

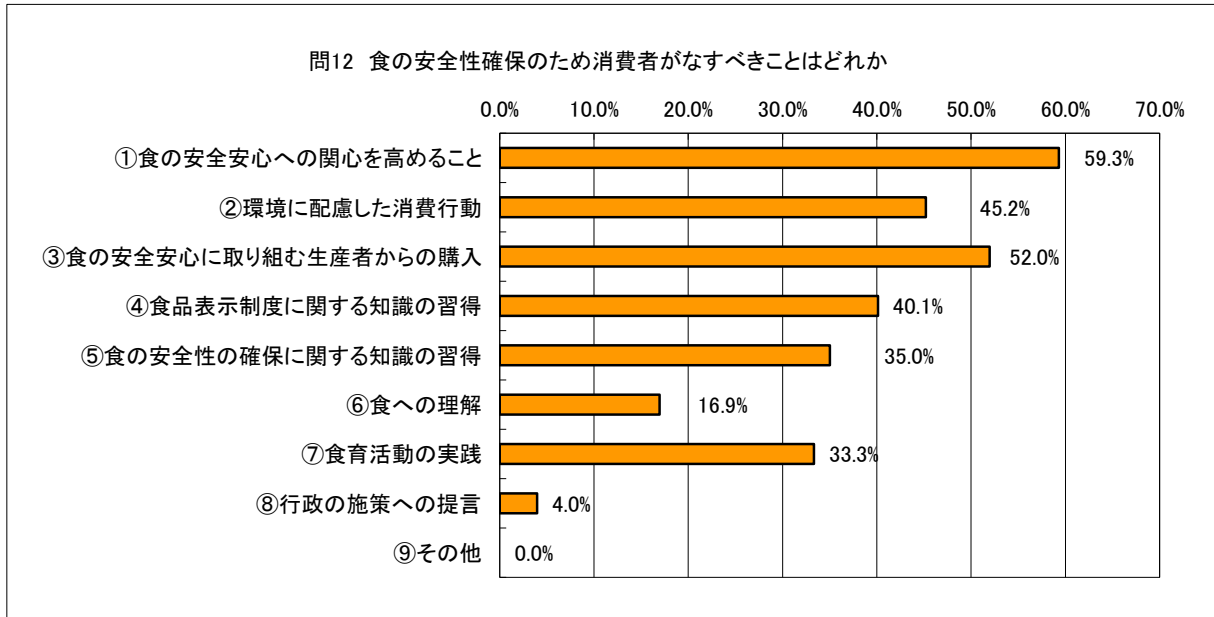
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: シンポジウムなどの開催や補助金を給付するなど生産者が安心して労働できる環境作り、製造や販売等の事業者においてモチベーションが高まるような取り組み、市場開放と地産地消という矛盾した経済構想を食品の生産販売業界に的確に説明すること 等

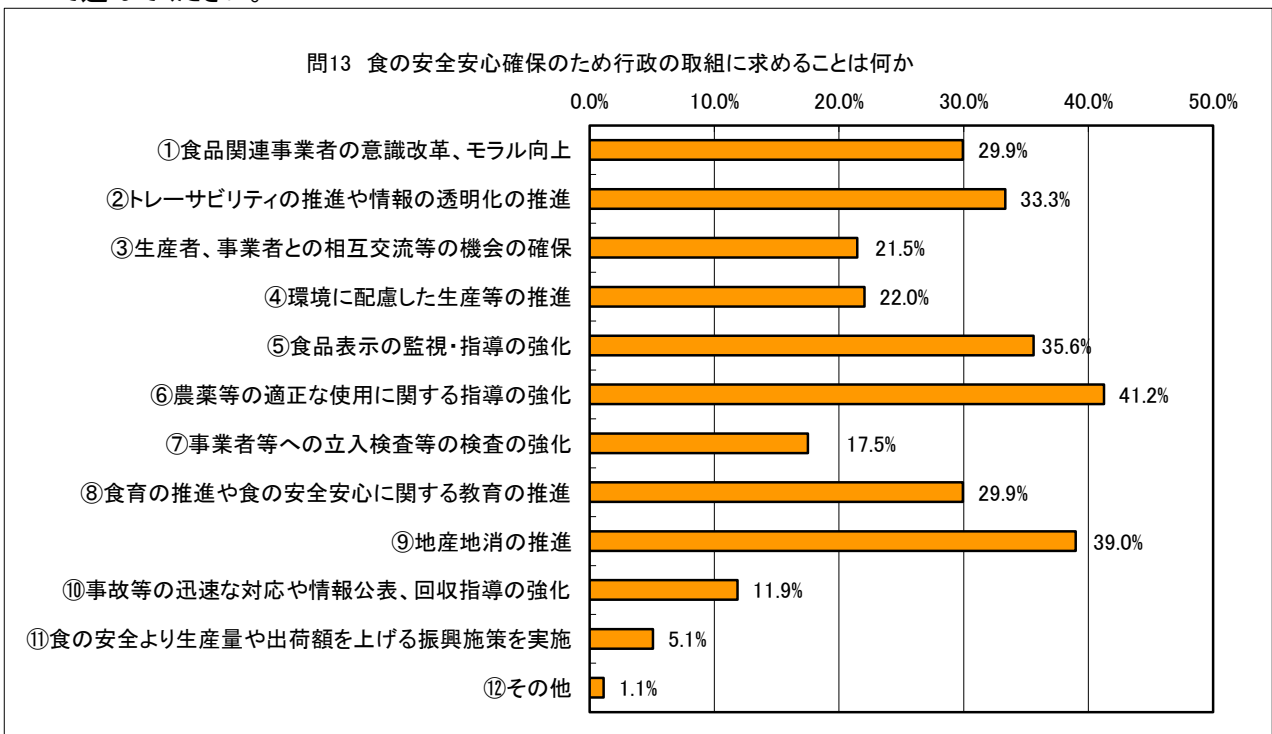
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(16人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(16人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、6割弱(59.3%、前回58.2%)の人が「①食の安全安心への関心を高めること」を挙げており、次いで「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(52.0%、前回52.7%)」、「②環境に配慮した消費行動(45.2%、前回40.8%)」の順に多かった。

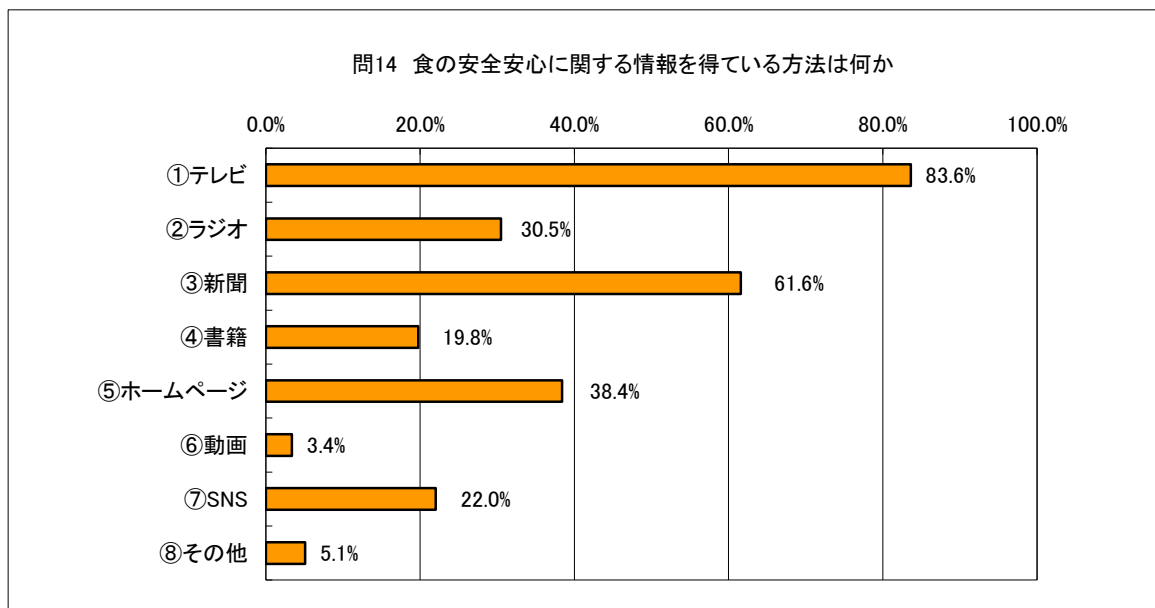
問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 消費者教育、アレルギーに対する取組強化

行政の取組に求めることは、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(41.2%、前回31.8%)」が最も多く、次いで、「⑨地産地消の推進(39.0%、前回27.4%)」、「⑤食品表示の監視・指導の強化(35.6%、前回44.8%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：講演会、講座、チラシ、広報誌、店頭のPOP等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(83.6%)」が最も多く、次いで「③新聞(61.6%)」、「⑤ホームページ(38.4%)」の順に多かった。

問15 食の安全安心について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	食品添加物の安全性について、残留農薬の人体への影響はいかほどなのか、情報を提供してほしい。
2	行政からの情報を正確に流してほしい。マスコミについてはあまり情報が多すぎて正確なものの判断ができない
3	輸入食品の安全性がしっかり担保されているかどうか常に不安がある(特に中国産について)
4	食の安全、安心は常識になっていると感じます。食糧は命を繋ぐものですから、価値は安く、品質は高くです。そして、生産者の安定経営保証をする政策を。コロナ後を見据え、日本の食糧自給率向上対策が必要だと思います。
5	残食の無いように、心がけている。
6	産地からの情報がよく聞かれる。コロナ禍により外出がままならない昨今、気をつかいながら食材を購入している。
7	朝食、インスタント食品だけの食事、外食だけの食事のメリット、デメリットについて家族で話すことがなくなったことにより、体に悪い食事をすることもあるのではと感じる。
8	環境問題に適正な答えを出しているのだろうかと考えます。生産する場合でも、消費する場合でも、もっと問われるべき問題です。
9	様々な情報がありすぎて、その都度ふり回されていることも事実です。農業に関しては、先日春菊の問題があったばかりで不安です。そして、養殖産業の餌など売場では知り得ない事が心配です。
10	近年、食品の表示義務等が厳しくなっており、きちんと成分表示・製造所などの記載がされている商品に関しては安心感がある。何か問題があればすぐにその情報が手に入ることもあり、基本的には信用して購入をしている。
11	物がいっぱい時代の消費期限や賞味期限があり、過ぎてしまうと食べないで捨てられている。本当に勿体ないです。もっと期限について家庭、学校、地域に知らせてほしいです。
12	沿岸地域在住なので、貝毒には敏感になっている。
13	一人暮らしで加工食品の購入が多くなっているため、添加物(特に塩分)に注意しているが、(注)の文字が細かく読みにくいため、特に注意する項目だけでも大文字にしてもらいたい。
14	①トレーサビリティを多くの食品に導入し、「QRコード、バーコード」によりスマホで確認できるようにする。 ②食品販売の売り場で、「トレーサビリティ」の意味、内容の説明を表示する。 ③市民の皆様は食の安全面で、原材料、生産、加工の過程、食品の流過程が追跡できる様にする事で関心を持っていただく。
15	食の安全と安心についての講演会や勉強会、実習会に多く参加することで、自分の食生活に気を付ける様になると思います。
16	日本産の原材料で国内産であることが基準、生産者が責任をもって食材を提供するべきだと思う。身体の影響を考え、食品添加物のうち化学調味料は基本的に不使用にする。食品ロスを出さないように調理するなど、家で出来る事をする。子供世代によき社会を残すために、自分の事として考える。
17	土壌汚染されていない生産物、また、海洋汚染もない魚介類が地産地消されているので安全安心と思っている。無人販売の野菜等(大根、人参、白菜)がすぐ完売するのを見ると安全安心だと推測される。
18	基本的に店頭と並ぶ商品は国の基準を満たした安全な製品だと思っています。調味料をはじめ、インスタント・レトルト等便利なので取り入れています。常に信頼できる商品が店頭と並ぶよう、行政には今まで同様、管理監督をお願いします。
19	賞味期限と食の安全について考えることがある。
20	生産者は法令遵守し適正な生産をして欲しい。
21	農家なので、自家消費するものには農薬をなるべく使わないのだが、スーパーなどに並んでいる野菜などは見た目の良いものばかり。また、中国製冷凍ゴーザによる薬物中毒事件のようなものは、今後も出てくると思うので、事業者は性悪説で臨んでほしい。小さい頃からの「食育」は絶対必要なので、いいものを提供して欲しい。それは大人にとっても必要。
22	加工食品は手軽でよいが、毎日の食は粗食でよいので、食物の原形を切ったり煮たりして調理したものを食べたいと思っているし、そのように実践することを心掛けている。
23	私は以前(子育て期間)、生協の宅配を利用していたのですが、そのときに毎回配られる印刷物によって、食の安全安心を教えられていたのだと改めて感じる事ができました。そのとき、啓蒙されていたことがかなり今も役立っています。今でもメディア等に触れる度、意識して自然に食育、安心安全の方面の情報を取り込んでいます。今後も地産地消を始めとする安全安心な食品を選んでいきたいと思っています。
24	輸入肉等は安い安全安心か不安を感じる。加工されている食品も含め、どこの国の肉を使用しているのか表記があるので、それを参考に食品を購入している。表記がある事はとても助かる。
25	輸入食品が市場に多く出回っており、不安を感じながらも購入せざるをえない。国内の自給率が高まることを望んでいる。

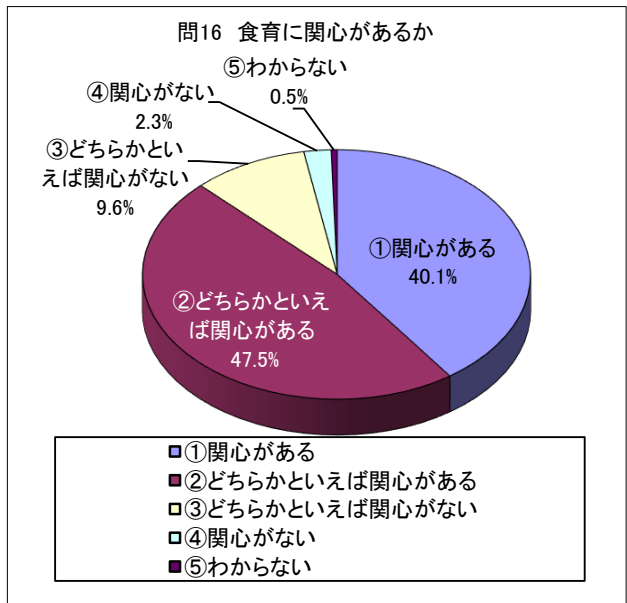
26	<p>山菜の販売可能な物の種類の制限など、10年経っても放射線による被害が岩手県南の食材にはあるのだと不安を感じてしまい、自家消費で採取、生産したものだからと家族に食べさせていいものかと不安になる場合もあります。</p> <p>生産者がストレスなく採取、生産、出荷できるようになり、岩手県民だけでなく全国の人が安心して全ての県産食材を食べられるようになることで、岩手県全体の魅力を更に自信を持って発信できるようになると思います。1つの食材がダメであればその他のイメージも悪くなりかねません。広い岩手県で全てを除去して問題ないと言い切れる日はいつになるのだろうと思います。</p> <p>都市部からの移住先として農村部に来てもらったものの、収入や自家消費用としてあてにしていた山菜などに安全の不安があることで、移住先とのミスマッチや検討先から外される事がないことを望みます。</p>
27	作物や食品が遺伝子組み換えかどうか気になります
28	できるだけ野菜等は自分で作って地産地消を心掛けている。
29	かなりの冷凍食品が出ていますが、孫に手料理とどっちがいいか聞いたら手料理を選びました。食事をつくる家庭時間がほしい。特に若い親には、手づくりで身と心の育ちを考えるために必要と思っています。
30	食品を作る人や会社は努力していると思います。その努力が継続できるよう、消費者は利用し、行政は社会情勢の変化に応じて支援して、共にいい関係が継続し、安全性が持続できるシステムになればいいと思います。
31	食品に添加物名は書いてありますが、特に野菜などには殺虫剤などの農薬使用歴、また「収穫〇日前迄使用」などの記入があれば安心ですね。
32	近所に産直があるので、葉物はいつも、とれたて新鮮野菜、生産者とも親しく安心していただいております。肉、魚も産地の表示を信じて買っています。自分にできることは地産地消で食材を残さないことかと。
33	最初はあまり興味がなかったのですが、体調を崩してから食べ物で身体が作られていると実感し、調味料(添加物)、農薬、水質などを調べたり、取り組んでいる方の話を聞いたりしたところ、知らないことばかりだった。子どもたちのためにも選ぶ側も学ばないといけないと思いました。
34	添加物のあるものは、あまりとらないようにする。どこの産地のものか確認する。生産者の顔が見られると安心する。
35	道の駅を利用しています。出店者のモラルを向上させてほしい。
36	「買うなら岩手のもの運動」のおかげで、いわての食品を知ることができ、良いキッカケになった。
37	表示、表示の基準、法律の内容や改正の時期などについて解りやすいサイトがあると良い。農薬中毒や医療に関するアーカイブがすぐに見つけられると良い。特に輸入の食品に関して。
38	輸入食品については原産国を見て購入しない場合がある。しかし、原料は輸入物でも国内で加工された食品については把握しきれない不安がある。
39	現物を見て品質や消費期限等を確認している。
40	食の安全安心は、食に関する一人ひとりのモラルの問題と考えている。
41	今後できるだけ県産品を購入していきたい
42	食品を購入する時は、価格で決めてしまう。
43	県産品や国産品を購入する事を心がけています。
44	メイドインジャパンでないのはなるべく買わない。
45	地元産(岩手県産)の食品を食べよう心がけている
46	地産地消や日本国内での食糧自給率上昇
47	輸入品より国内産の食物の方が安全だと感じている。
48	外国産より国産の物、近くの産直で買うようにしている。
49	とにかく安全安心な食品を届けてほしいと、日頃感じています。
50	お惣菜や加工品など原産国や産地の表示がないので不安感がある。
51	国産か海外のものかは、スーパーでもっとわかりやすく置いて欲しい。

52	生産者の顔が見える販売が望ましい。生産者と交流出来る場があれば良いと思う。
53	若い世代がコンビニで食品を買うことに対して、一抹の不安を感じる。
54	農産物の残留農薬が心配、添加物の使用が多く、不使用の物を探すのに苦労している。
55	産直は生産者が分かり、安心して買える。スーパーでは気をつけて買うようにしている。
56	中国産のものには抵抗があり、安くてもあまり買ってない(農薬や、偽装等のニュースが目立つ)。
57	中国産食品は、購入単価では安いが生産過程に不安が想定されるので購入しない様にしてる。
58	生肉や魚について、生産者と販売者は、賞味期限前までに安く素早く流通させて欲しいです。
59	食育の講習会をぜひ開催してほしい。
60	産地をもう少し大きく表示すると見やすくなると思う。
61	道の駅で購入する機会があるが、生産者の顔写真と一言があるので、安心して購入することができています。
62	生産者や、食品の製造・販売にかかわる事業者との情報交換、意見交換の場がない。行政がセットしてほしい。
63	道の駅など産直では、誰が作ったか顔写真がある所が多いと感じる。それはとっても安心安全なのかなと思う。
64	福島原発の処理水を海洋放出した場合、三陸沖の海産物への影響はどうか気になっています。
65	無農薬と言っているものは本当に無農薬なのか。田舎の道の駅で売っている形の悪い野菜などの方が、安心な気がする。
66	包丁、まな板のない台所が増えているという情報を注視している。
67	産直出品者(生産者)の中には、「商品」についての意識が欠ける人がいる、意識を徹底したうえで地産地消は大いにやるべき。
68	普段食べている食品(県産品を含む)が安全なのか調べたいけれど、ネットやSNSの情報を全て鵜呑みにしてよいか不安になる。
69	産直や直売をよく利用しているが、生産者や加工物の品目などが詳しく書かれた商品が多くて、管理されていると実感している。
70	海外の食品には注意を払っているつもりですが、日本の農薬等の基準もよく分からないので、なるべく産直などで購入したいと思っています。
71	化学物質過敏症を抱えています。米など、農薬除草剤が適正使用でも、体調に影響する場合があります。生産者の取り組み姿勢を重視して購入しています。
72	商店で、消費期限が切れていたり、間近なものが並べられていた。普段、気にしていない為、自宅で口にする際に気付いてショックだった。
73	規格外となった生産物(野菜・果物・肉・魚及び製品)を廃棄せず安価で流通させることができればフードロスの解消や社会福祉の観点からも有用と考えます。
74	中国産の食品は買わないようにしていますが、スーパー等の売場には相変わらず中国産が多く国内産が少ない。日本の農業をしっかりと見直すべきではないでしょうか。
75	保育園、小学校に通っている子供が、「地産地消メニューの時はとてもおいしかった、食材は〇〇で取れたもので…」と教えてくれます。これからも食育活動は続けてほしいです。
76	新型コロナウイルスの中、店内での咳やくしゃみ等によって、商品の表面にウイルスが付着している可能性があるのではないかと不安を感じている。
77	インターネット販売を推進したほうが良いと思う。県内在住の場合は送料無料などのサービスがあったらいいと思う。(コストがかかる環境を考えれば、やめたほうが良いかもしれません)
78	普段からスーパーで料理に使用する食材を買っていますが、店頭と並べられている物は安全な物と認識して買っているの、今後も誰もが安心して買える食材を売ってほしい。
79	産直などで顔が見えるような商品は少し高くても買うようにしています。町内のスーパーで鶏肉を買う時、毎回ドリップがすごい出ているのが気になります。
80	食品の表示方法が文字だらけ。見てすぐわかる様な表示マーク(県産品マークなど)にして欲しい。
81	食品にQRコードを付けて、読み取ると詳細が表示されるなど、ビジュアルで安全安心を確認できるようにしてはどうか。
82	食品の数があまりにも多く消費者ひとりひとりがその一品一品の安全性を確認して購入・消費することは困難である。行政による一元的な安全性確認組織が必要ではないか。

83	添加物の多さに危険を感じております。認可されている添加物でも数十年後大丈夫なのか不安に感じます。
84	地元のスーパーで買物することが多く、地元の農家さんが育てたものであることを住所、氏名等により確認して買い物が出来ていることに安心しています。他国産と書いている物は避けています。
85	店で食品表示を見ると、なる程と思える物が入っていたりするので、見るのも楽しいです。又、この頃はアレルギー食品が書かれているので便利になったと感じます。
86	中国産のものが農薬とか気になる。
87	先日、干しいもを購入する際、産地、生産者、値段の表示がなく、お店の方に聞いたところ値段だけ回答されました。食の安心はこの商品にはなかったように感じました。
88	県産品であれば安全安心という感じがしています。しかし、多少でも事故があるなら早く情報を知らせ、早く対処して欲しいです。子供達にも安心安全について伝えていきたいので、情報提供などは良い事も悪い事も早期に伝えていただきたい。
89	アレルギーの人が安心して食べれる食品をもっと増やすべき。アレルギーの人でもそうじゃない人でも同じ物を安心して食べれるようになってほしい。外食や宿泊施設でアレルギーの人でも楽しく食事をできることが増えることを願ってます。
90	4年ほど前から市の「食生活改善推進員協議会」の会員になっている。年に1度の講習会で塩分を減らすメニューを習っていた。他にも得た情報は実践して「手作り」にこだわっている。今年度はコロナのために活動や、地域での伝達講習がほとんど行われていない。
91	なるべく農薬が使われていない野菜や果物を食べたいと思い、季節はずれの野菜、輸入物の果物は食べず、旬のものを食べることを実践している。また、自家用野菜は家庭菜園で作っている。
92	テレビやSNSで、不確実な情報が出回っていることが不安です。「この商品は添加物がたくさん」とか、「この成分が入っているものは買っちゃだめ」とか、「これを一生食べ続けると…」といった根拠がはっきりしない情報に踊らされている気がします。正しい知識を身に付けて食材を見極めて購入したいです。
93	安全安心な食品の基準は人それぞれで、安全な農薬なら大丈夫という人もいれば、人工的なものは一切受け付けない人もいます。生産者や事業者は正しく伝えて選択肢を明示すること、消費者は正しく自分の基準をもって選ぶこと、が大切だと思う。あやふやなイメージのみで選ばれることがなくなれば食品ロスも減ると思う。
94	食品添加物に関して、まだまだ知識不足なのを感じる。国外で禁止されている添加物が国内では使用されているなど、日本の添加物への意識の低さを感じる。食品添加物の危険性について、普段の食卓を囲みながら親から子供たちへ教えていきたい。
95	最近、大きな食品事故もないが、一度発覚すると2件3件と続出したりする。発覚していないだけの気がする。優良事業者による事故製品の回収も耳にしなくなった。そんな現在がとても不安だ。食品製造にあたり、器具、食材に塩素を使用するが、残留塩素の検査などを行っているのか、不安だ。
96	産直で生産者表示している商品は安心できる。学校給食は全ての児童に同じものを提供しており、給食から学ぶことはたくさんある。自校食は続けてほしいし、栄養指導も食の安全安心の大きな学びになっている。スーパーなどでのプラスチック過剰包装はプラスチックゴミが増えるだけで社会的課題であると思う。消費者がしっかりと感心を持つことが重要だと感じている。
97	2歳の子どもがいる為、子どもが生まれる前とは異なり、食品成分表の記載を入念に確認することが多い。特に、加工品に関してはよく確認している。また、野菜などは出来るだけ産直で買うように心がけており、新鮮さを重視している。産直によってはどのように栽培していたのかを丁寧にわかりやすく記載されているものもあり、スーパーなどに比べて安心して購入できている。地産地消を心がけ、これからも安心安全な食材を選んで購入していきたい。
98	安心安全であることが基本ではありますが、食品ロスについての配慮が、生産者側のみではなく消費者側も考えてもらえる機会が増えることを望みます。毎食食べられない人もいれば、一食に何食分も食べる人もいます。格差のありすぎる食をもう少し改革してほしいです。
99	生育の様子や収穫作業などをオンライン配信により情報発信していただけると、食物への理解が深まると思います。行政は、消費者が収穫や管理を体験する機会の提供や、情報共有をしていただきたく思います。消費者である自分は、農作物の生育の手間暇など、機会を見つけて理解し作物への感謝を忘れないでいきたいと思っています。農薬の使用状況や作物の安全性を定期的に確認していただきながら、提供していただけたら嬉しいです。食品の添加物や機能など表示項目が多く、管理も大変だとお察しします。廃棄ロスを減らして、食物に感謝して、生産者さんも消費者も安心して暮らせる社会であってほしいです。
100	コロナ禍で、地域の食材に注目するようになった。ただ消費するだけでなく、岩手には、本当に豊かな食があることをあらためて知り、味わうようになった。生産者や生産地がわかるお店や飲食店を選ぶようになった。買うことが例えば生産を応援することになると感じるようになった。生産者が安心して良いものを作る環境は消費者が作る面があると感じている。県内で生産し消費することを増やせば、安心で、おいしい食が実感できるのではないかと感じている。特に、学校給食や宅配弁当などでは、どんどん地産地消してほしい。消費者と生産者との交流もやってほしい。地域への理解や愛着にもつながると思う。
101	日本人の食習慣は戦後75年、様変わりしてしまった。手料理による家族団らの食生活が社会事情の変化とは言え少なくなった。地元産の野菜や魚介類など使った手料理が少なくなり冷凍食品、インスタント食品、出来合いの惣菜で済ませてしまう状況が垣間見られる。家族団らの食生活の良さを理解することが食の安全安心に繋がることを自覚したい。

問16 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

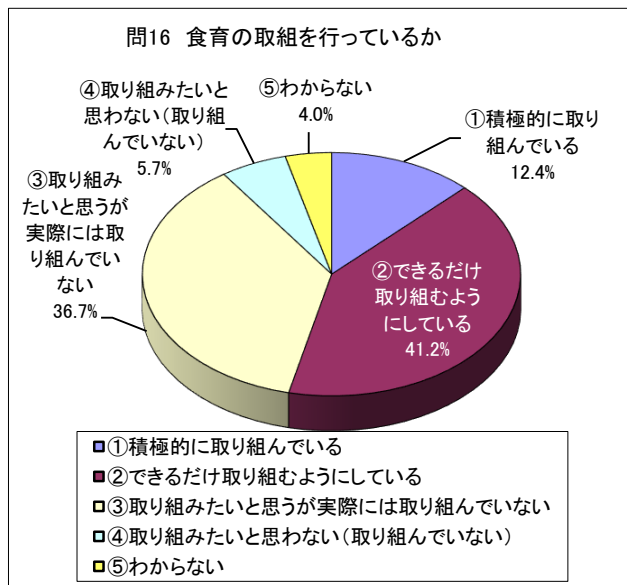
①関心がある	71
②どちらかといえば関心がある	84
③どちらかといえば関心がない	17
④関心がない	4
⑤わからない	1
計	177



食育に関心がある人は87.6% (前回84.1%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

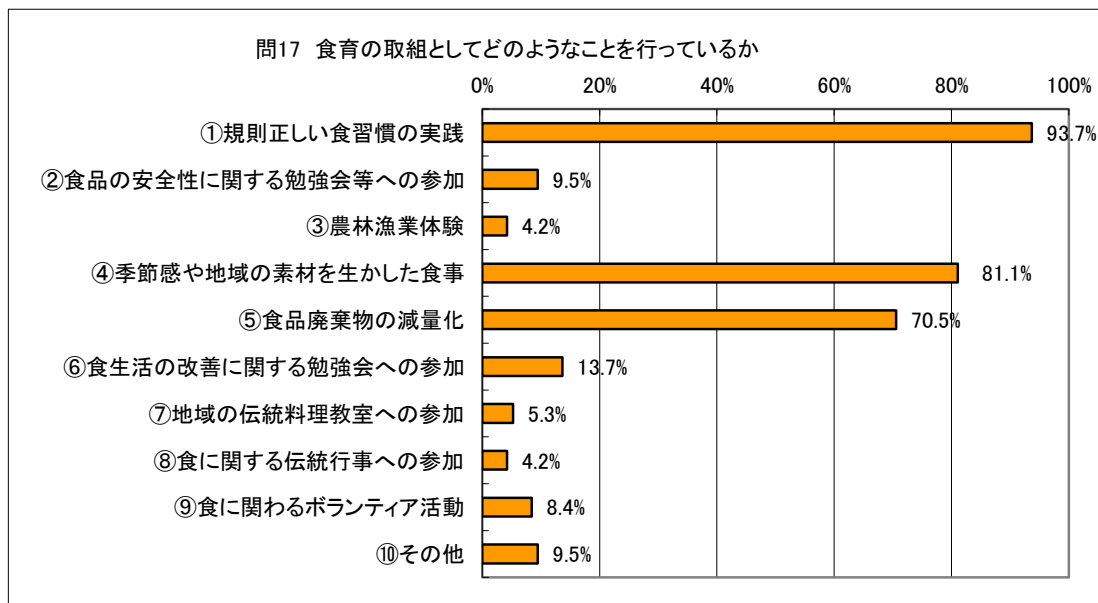
問17 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	22
②できるだけ取り組むようにしている	73
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	65
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	10
⑤わからない	7
計	177



食育の取組を行っている人の割合は53.6% (前回66.6%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が36.7% (前回21.9%)であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

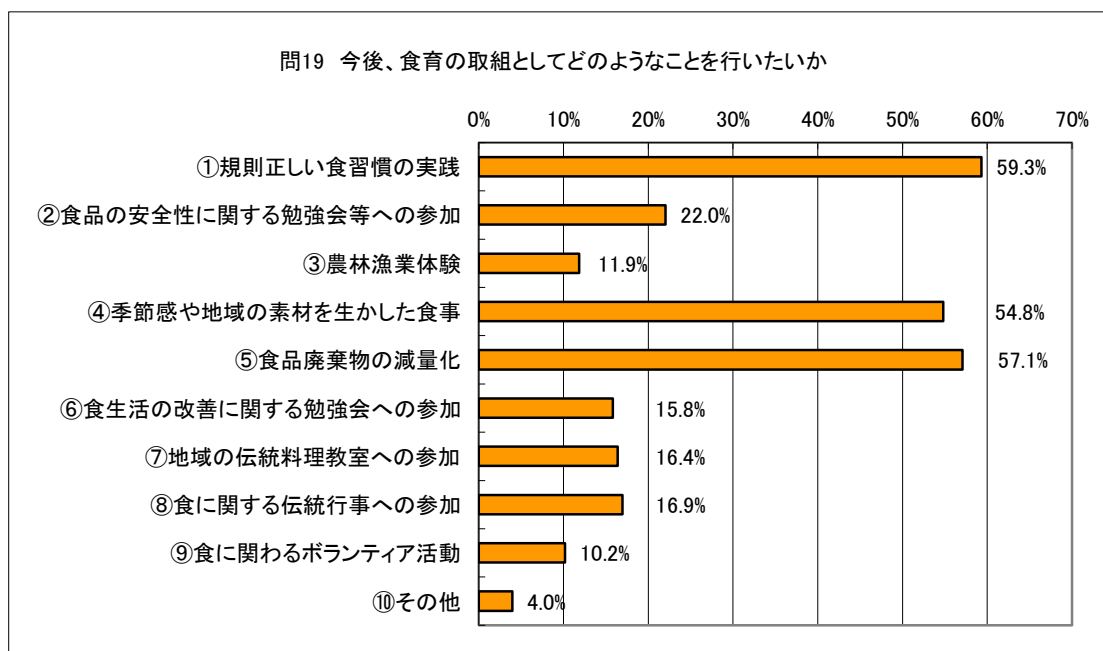
問18 問17で①又は②を選んだ方にお聞きします。
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの:書籍で学んでいる、折に触れて家族と話す、自分で食べ物を作る、講演会の開催、食べ方についての指導、添加物や無農薬などを気にする、添加物などに関して子供たちに話す、畑を借りて子供達と野菜と一緒に育てる 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(93.7%、前回87.3%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の食材を生かした食事(81.1%、前回73.9%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(70.5%、前回70.1%)」の順に多かった。

問19 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

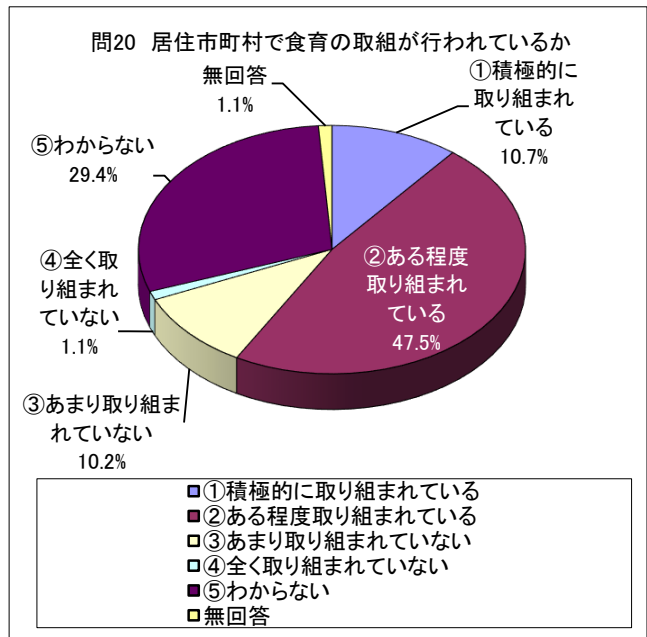


※ 「その他」の主なもの:賞味期限や消費期限について詳しく知り捨てない工夫をしていく、自分で作った食べ物を食べる、食と体に関する学校などでの指導、食べ物の安全性を学ぶ、減塩に取り組む、子供たちに食品添加物などの食品についての知識を教えていきたい 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「①規則正しい食習慣の実践(59.3%、前回58.2%)」が最も多く、次いで、「⑤食品廃棄物の減量化(57.1%、前回49.8%)」、「④季節感や地域の素材を生かした食事(54.8%、前回50.2%)」の順に多かった。

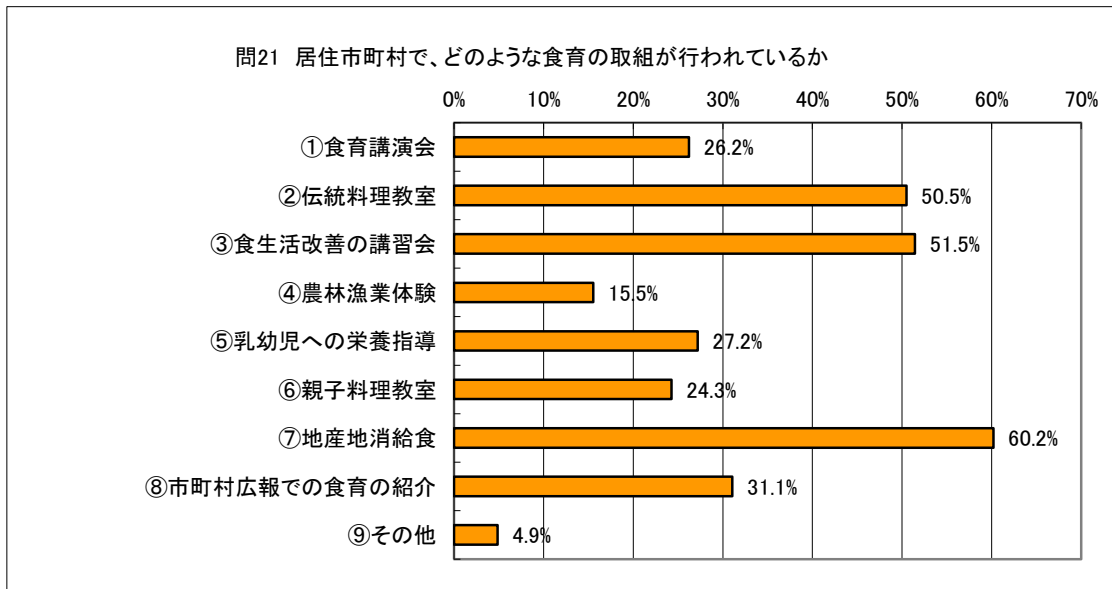
問20 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組まれている	19
②ある程度取り組まれている	84
③あまり取り組まれていない	18
④全く取り組まれていない	2
⑤わからない	52
無回答	2
計	177



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は58.2%（前回58.2%）と前回と同程度だった。また、取組の有無が分からないという回答も29.4%（前回28.4%）と前回と同程度だった。

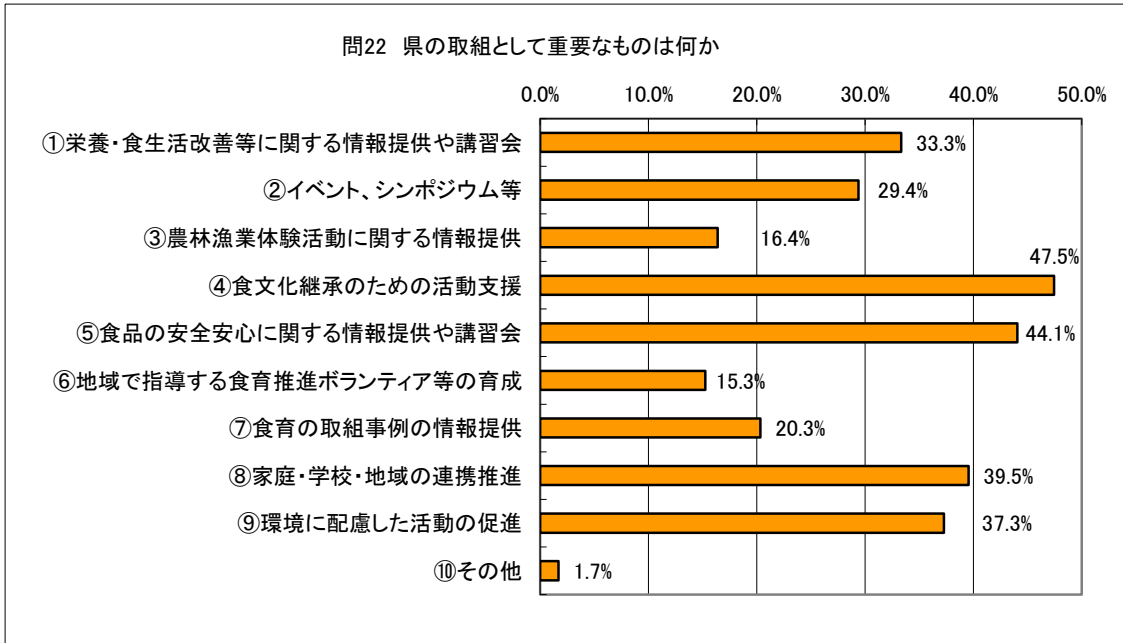
問21 問20で①又は②を選んだ方にお聞きます。
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：特にこれと言って目に見えて取り組んでいるように感じられない、男の料理教室への参加、保育所での子供への料理体験 等

居住市町村の食育の取組内容は、「⑦地産地消給食(60.2%、前回42.7%)」が最も多く、次いで「③食生活改善の講習会(51.5%、前回60.7%)」、「②伝統料理教室(50.5%、前回49.6%)」の順に多かった。

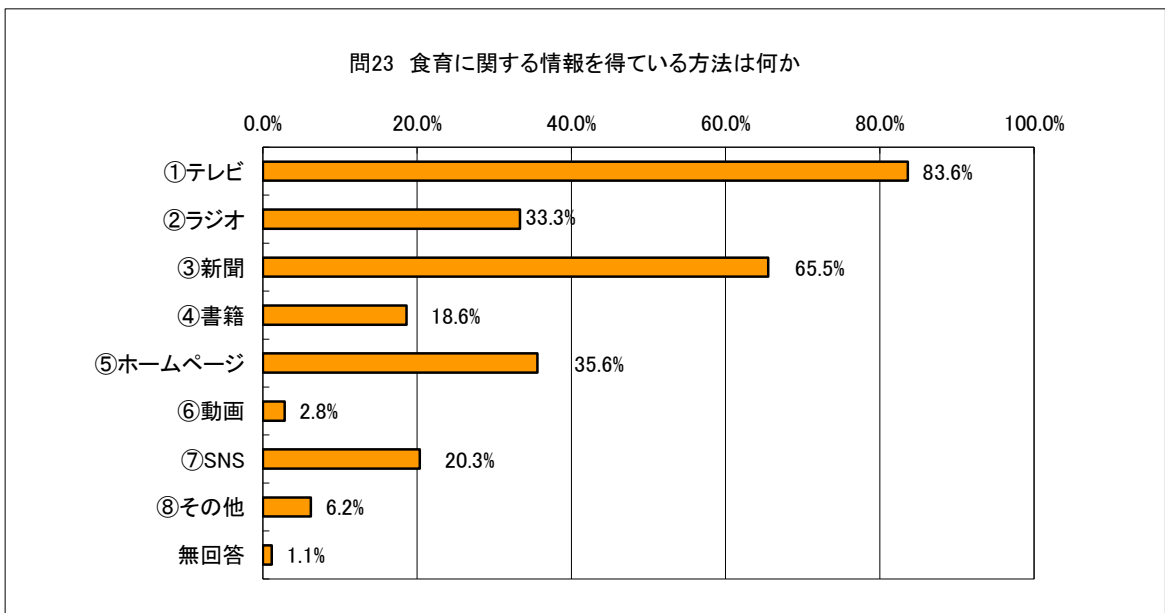
問22 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:飲食店で食べ切れなかった物を持ち帰るような取組、食品の量り売りの強化、学校の授業に食育をもっと取り入れる、アレルギーをもっと理解してもらえるようにテレビやSNSなどでもっととりあげてほしい(料理番組でアレルギーを使わない料理を紹介するなど) 等

県の取組として重要なものは、「④食文化継承のための活動支援(47.5%、前回41.8%)」が最も多く、次いで「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(44.1%、前回46.3%)」、「⑧家庭・学校・地域の連携推進(39.5%、前回27.9%)」の順に多かった。

問23 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:講演会、講座、保育所だより、友人・知人、チラシ、広報誌、カタログ 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(83.6%)」が最も多く、次いで「③新聞(65.5%)」、「⑤ホームページ(35.6%)」の順に多かった。